平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ７５ ※記入不要	提案機関名	県央地域農業改良普及センター

要望問題　イチゴ炭そ病検定時における植物ホルモンの活用

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

イチゴ母株等の簡易検定法において、シャーレに滅菌・湿潤条件で１０日間インキュベートすると、葉のクロロフィル含量の減少が品種によって異なるように感じる。例えば、章姫のほうがさちのかよりもよくyelloweringしやすい。そこで、植物ホルモンであるサイトカイニン（BA：ﾍﾞﾝｼﾞﾙｱﾃﾞﾆﾝ等)を濃度を変えて使用することにより、葉の老化を防ぐメカニズムを解明し、新品種作出等に応用してほしい（サイトカイニンはクロロフィル等の酵素活性など、光呼吸系にも関係すると思われる)。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所

部　　署：生産技術部

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

炭そ病の検定時のクロロフィル含量の減少は、植物ホルモンだけの要因ではないと考えられます。また、この黄化症状が検定結果に影響するならば、検討します。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内

備　考